

# 学園 大学 史料館 ミュージアム レター

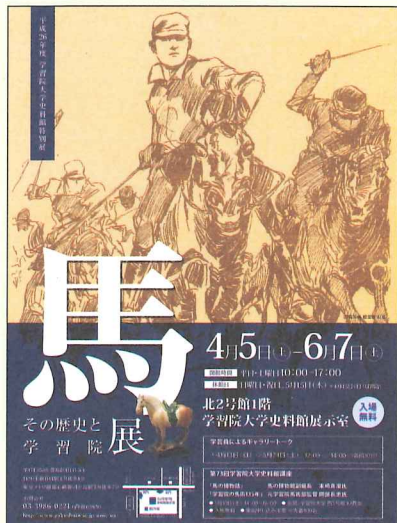
Gakushuin University  
Museum of History

# Museum Letter No.25

発行日 ● 平成26年(2014)4月5日

もくじ

ごあいさつ	1
I アジアを駆ける馬	2~3
II 中・近世史料にみる馬	4~5
III 馬と学習院とのかかわり 1	6~7
骨から見た乃木号・学習院の打毬	8~9
III 馬と学習院とのかかわり 2	10~11
特別陳列—左三ッ巴紋花鳥円文蒔絵鞍・鎧	12



## ごあいさつ

私は、4年間半館長を務められた文学部高橋裕子先生の後任として、本年度より館長を務めさせていただき経済学部の和光純と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて、馬にまつわる今回の展覧会とその特集である本ミュージアムレターは、学習院における春の季節観とも実に良く合う企画です。OBの皆様は既に察せられたかも知れませんが、オール学習院の集いにおいて本学馬術部が行う子供たちのための乗馬体験の催しは、学習院の4月を象徴する行事の一つと言えます。

本号では、このように定着して現在に至る学習院と馬との関係が、アジアの中の日本における馬と人の歴史を含めて、貴重な史料とともに紹介されております。凝縮された解説をゆっくりとお読みいただき、一層興味を深めていただきたいと思っております。

展覧会の実施と本号の作成にご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

(館長 和光 純)

## 馬—その歴史と学習院—展

明治10年(1877)華族子弟の教育機関として開校した学習院では、同12年(1879)に馬場開き(馬術開業式)が行われ、「馬術」が正課とされました。学習院は日本で最初に学生馬術教育が行われた学校となります。

馬術は華族の子弟にふさわしい軍人を養成するための教科でしたが、第10代院長乃木希典をはじめ、教員たちは馬術を通じて、学生の精神面を鍛錬することも重視していました。

今回の展覧会は、学習院馬術部のOB会である「桜鞍会<sup>おうあん</sup>」から当館に寄贈された史資料を中心に、中・近世の史料もあわせて紹介いたします。さらに当館には乃木院長の愛馬であり、学習院の馬術教育にその一生を捧げた「乃木号」の骨格標本が収蔵されています。この標本の生物学的調査研究の発表もいたします。

明治41年(1908)に建築された「厩舎」は、現在も目白キャンパス内で使用されており、国登録有形文化財になっています。桜の花の舞い散る中、ぜひ学習院の馬術教育の面影を残す厩舎へもお運びください。

(学芸員 長佐古美奈子)